



開放的な吹き抜けは、床暖房を採用することによって快適性が格段に向上。電気式のためコストも思ったほどではなかったとか。

一年中「おだやかな光」に溢れた家。



シンプルながら住まいのクオリティを感じさせる玄関アプローチ。可憐な花の咲く花木の成長も楽しみ。



リビングから続く和室は、同色の壁や琉球畳を用いることで色調を揃え、リビングとの一体感を演出。

「明るい家が希望だけど、強すぎない日差しがいい」と建築家にオーダーしたという日邸は、1年を通して穏やかな陽光が差し込む心地よい住まい。その理由は「2階天井まで吹き抜けを採用したリビング」と「リビングの南壁全面に配されたガラス窓」、そして「3角に切り取られた屋根」にあります。特にこのユニークな形状の屋根は単なる意匠ではなく、四季の太陽の軌道と角度を計算し割り出された機能的デザイン。夏の午後は強い日差しを遮り、冬は家の一番奥に位置する和室の端まで、まるで測ったようにピッタリと光が入るといいます。その効果は明るさだけでなく、真冬でも光が入る昼間なら床暖房だけで過ごせるというから驚きです。



和室のブラインドを上げれば、遊歩道の樹木(桜並木)を四季折々の借景として取り入れることができる。春には満開の桜が見事で、「家の中に居ながら花見を楽しめる」とは羨ましい限り。

家族と共に成長する 「自由度の高い」設計。

「光・風・緑」を心地よく取り込んだH邸は住まいが完成した時点での暮らしやすさだけでなく、将来に渡る家族構成の変化にも対応する自由度の高い設計が特長。例えば子供の結婚などにより、もうひと部屋必要になった場合は、吹き抜けの2階部分に床を張り、居室を造ることも簡単に行けるといいます。それを可能にしているのは、建物のベースとなる構造体そのものが高い耐久性と持続性を持っているからこそ。少なくとも30年先までは想定されているというH邸は“家族と共に成長を続ける住まい”なのです。

Style スタイル のある家づくり

CHECK!



吹き抜けは1階と2階の断面差から空気が家の中を循環するので、風がない日も快適なのだとか。天井のファンも雰囲気だけでなく機能的な意味合いが大きい。



三角に切り取られたユニークな中庭の屋根は、一年を通して室内に入る太陽の日差しを緻密に計算した建築家の技。



無駄な飾りを排した機能的なデザインと素材そのものの質感が、存在感と個性を際立たせている。



ダイニングの縦長い窓は、明り取りとしての機能だけでなく、意匠としてもモダン。

- ■ DATA
- 1階 リビング13、DK10.5、和室6、納戸4、テラス8
- 2階 書斎3、寝室8、子供室6×2、
- クローゼット4、バルコニー4
- ■ 家族構成
- 夫、妻、子供2人
- ■ 設計
- BGM建築設計（インタビューにて紹介）